

危険物仮貯蔵・仮取扱承認申請書の記載要領

危険物仮貯蔵・仮取扱承認申請書は、次に示す記載例に留意し、記入してください。

第1号様式（第2条関係）

① 仮貯蔵
危険物 承認申請書
② 仮取扱

(あて先) 京都市〇〇消防署長	〇〇年 〇〇月 〇〇日
申請者の住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都市〇〇区〇〇町〇〇番地	申請者の氏名(法人にあっては、名称及び代表者名。記名押印又は署名) 〇〇株式会社 代表取締役 消防 太郎 (代表者印) 電話 〇〇〇-0119

京都市危険物規制規則第2条第1項の規定により危険物を <input type="checkbox"/> 仮貯蔵するので申請します。 ③ <input checked="" type="checkbox"/> 仮取扱		
責 任 者	④ 〇〇株式会社 総務課長 消防 次郎 (危険物乙種第4類 京都〇〇〇〇〇号)	
仮貯蔵又は仮取扱いをする場所	⑤ 京都市〇〇区〇〇町〇〇番地	
敷 地 の 面 積	⑥ 5,000	平方メートル
建築物その他の工作物の数及び面積	⑦ 京都市〇〇区〇〇町〇〇番地敷地内南西側 (50㎡)	
周 囲 の 状 況	⑧ 別紙(平面図)のとおり	
目 的	⑨ 変圧器絶縁油を入れ替えるため	
期 間	⑩ 平成 〇〇年 〇月 11日から 〇〇年 〇月 20日まで	
危険物の類、品名(指定数量)及び数量	⑪ 第4類 第3石油類 絶縁油 (指定数量 2000ℓ) 数量 3000ℓ	⑫ 第4類 第3石油類 絶縁油 (指定数量 2000ℓ) 数量 3000ℓ
仮貯蔵又は仮取扱いの方法	⑬ 別紙(作業工程表)のとおり	
消 火 設 備	⑭ 第5種消火設備 ABC 粉末消火器 10型 2本	
その他必要な事項	⑮ 仮貯蔵等承認済みの掲示板及び火気厳禁の標識を見やすい箇所に掲示する。緊急連絡先 〇〇〇-0119	
※ 受付欄	※ 経過欄	※ 手数料欄
	承認年月日	
	承認番号	

以下略

① 仮貯蔵又は仮取扱のいずれか該当する方を○で囲んでください。又は該当しない方を二重取消線で消してください。

② 仮貯蔵等の承認申請を行った日付を記入してください。

申請者の住所及び氏名は、仮貯蔵等の行為を行う方又は当該仮貯蔵等に対して管理責任がある方（法人の場合は、その所在地及び代表者）の住所及び氏名としてください。ただし、請負工事に伴い、仮貯蔵等が必要な場合について、発注者又は請負業者のいずれが申請者になるかは、仮貯蔵等の行為に対して管理責任を負う方を申請者としてください。

なお、申請者が申請手続きの代理人を定めたときは、委任状を添付してください。

③ 仮貯蔵又は、仮取扱の□のいずれかに✓を記入してください。

④ 仮貯蔵等の場所又は行為の管理責任を負う方の職、氏名を記入してください。

なお、当該管理責任者が危険物取扱者免状を有している（必ずしも必要ではありません。）場合は、免状の区分、番号を記入してください。

⑤ 仮貯蔵等を行う住所を記入してください。

⑥ 仮貯蔵等を行う場所の存する建築物その他の工作物又は屋外の場所を含む全体の敷地面積を記入してください。

⑦ 仮貯蔵等を行う場所が屋外である場合は、仮貯蔵等を行う場所及び面積を記入してください。

（例） 「敷地内南西側」

仮貯蔵等を行う場所が屋内である場合、建築物の延べ面積及び仮貯蔵等が行われる一室の面積を記入してください。

※ 括弧内に一室の面積を記入してください。

⑧ 仮貯蔵等を行う場所から周囲の保安対象物件（危政令第9条第1号イからへまでに規定するもの）までの水平距離を記入してください。

図面による場合は、「別紙のとおり」と記入し、図面を添付してください。

（例） 「北側30mに住宅」（方角、距離及び保安対象物件）

⑨ 仮貯蔵等を行う目的を簡潔に記入してください。

（例） 「臨時ヘリポートの燃料を貯蔵するため」

「清酒製造用の添加アルコールを調合するため」

「変圧器絶縁油を入れ替えるため」等

⑩ 仮貯蔵等を行う期間を記入してください。

開始日を含めて10日以内であることを確認してください。

⑪ 仮貯蔵等を行う危険物の類、品名、数量を記載する。

品名が多いときは、別紙に記入してください。

屋外で仮貯蔵等が行われる場合には、京都市危険物審査基準第17章4で、屋外における仮貯蔵等を行うことのできる危険物の類、品名を確認してください。

（例） 「第4類第2石油類（灯油）1500L」

- ⑫ 仮貯蔵等を行う危険物の最大倍数を記入してください。
小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ⑬ 仮貯蔵等の具体的な方法を簡潔に記入してください。
(例) 「A棟北側のタンク(〇〇リットル)にタンクローリーから受け入れ後、水で希釈(〇〇%)する。」
- ⑭ 仮貯蔵等を行うために設置する消火設備を記入してください。
消火設備については危険物の性質及び数量に応じて、その能力単位が所要数値に達するように設置してください。
(例) 「第5種消火設備ABC粉末消火器 10型 2本」
- ⑮ その他必要な事項欄に例のとおり記入してください。その他特記事項があれば空欄に記入してください。
(例) 「仮貯蔵等承認済の掲示板及び火気厳禁の標識を見やすい箇所に掲示する。」

危険物仮貯蔵承認申請書は、次に示す記載要領に留意し、記入してください。

第1号様式（第2条関係）

危険物 **仮貯蔵** 承認申請書
仮取扱

(あて先) 京都市〇〇消防署長	〇〇年 〇〇月 〇〇日
申請者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市〇〇区〇〇町〇〇番地	申請者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名。記名押印又は署名） 〇〇株式会社 代表取締役 消防 太郎 ^印 電話 〇〇〇-0119

京都市危険物規制規則第2条第1項の規定により危険物を <input checked="" type="checkbox"/> 仮貯蔵するので申請します。 <input type="checkbox"/> 仮取扱		
責 任 者	〇〇株式会社 総務課長 消防 次郎 (危険物乙種第4類 京都〇〇〇〇〇号)	
仮貯蔵又は仮取扱いをする場所	京都市〇〇区〇〇町〇〇番地 〇〇グラウンド 倉庫	
敷地の面積	5,000 平方メートル	
建築物その他の工作物の数及び面積	〇〇グラウンド 南東側 倉庫 (50㎡)	
周囲の状況	仮貯蔵を行う場所から、北西25mに住宅 南西50mに小学校、東50mに病院	
目的	臨時ヘリポートの燃料を一時的に貯蔵するため	
期 間	平成 〇〇年 〇月 1日から 〇〇年 〇月 10日まで	
危険物の類、品名（指定数量）及び数量	第4類第2石油類 (指定数量1,000ℓ) 数量1,500ℓ 指定数量の 1.5 倍	
仮貯蔵又は仮取扱いの方法	倉庫内にてケロシンをドラム缶で貯蔵する。	
消 火 設 備	第5種消火設備 ABC粉末消火器 10型 2本	
その他必要な事項	仮貯蔵等承認済みの掲示板及び火気厳禁の標識を見やすい箇所に掲示する。 緊急連絡先 〇〇〇-0119	
※ 受付欄	※ 経過欄	※ 手数料欄
	承認年月日	
	承認番号	

- 注 1 ※印の欄は、記入しないでください。
 2 該当する口には、レ印を記入してください。
 3 品名（指定数量）の記載については、当該危険物の指定数量が品名の記載のみでは明確でない場合に（ ）内に該当する指定数量を記載してください。
 4 仮に貯蔵し、又は取り扱う場所の構造及び設備の明細書並びに敷地見取図を添付してください。